

様式第9

循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
にかほ市地域	にかほ市	平成29年4月1日～令和4年3月31日	平成29年4月1日～令和4年3月31日

1. 目標の達成状況  
(ごみ処理)

指標	現状(割合※1) (平成27年度)	目標(割合※1) (令和4年度) A	実績(割合※1) (令和4年度) B	実績/目標※2	
排出量	事業系 総排出量	2,469 t	2,185 t ( -11.5 %)	2,201 t ( -10.9 %)	94.8 %
	1事業所当たりの排出量	2 t	2 t ( 0.0 %)	2 t ( 0.0 %)	100.0 %
	生活系 総排出量	7,115 t	6,634 t ( -6.8 %)	6,534 t ( -8.2 %)	120.6 %
	1人当たりの排出量	233 Kg/人	226 Kg/人 ( -3.0 %)	246 Kg/人 ( 5.6 %)	△ 186.7 %
合計 事業系生活系総排出量合計	9,584 t	8,819 t ( -8.0 %)	8,735 t ( -8.9 %)	111.3 %	
再生利用量	直接資源化量	15 t ( 0.2 %)	0 t ( 0.0 %)	0 t ( 0.0 %)	100.0 %
	総資源化量	1,142 t ( 11.9 %)	1,480 t ( 16.78 %)	1,131 t ( 12.90 %)	20.4 %
熱回収量	熱回収量(年間の発電電力量)	— MWh	— MWh	— MWh	
最終処分量	埋立最終処分量	1,897 t ( 19.8 %)	1,177 t ( 13.35 %)	1,599 t ( 18.31 %)	23.1 %

※1 排出量は現状に対する増減割合、直接資源化量・埋立最終処分量は排出量に対する割合、総資源化量は排出量+集団回収量に対する割合を記載。

※2 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、(実績の割合-現状の割合)/(目標の割合-現状の割合)

(生活排水処理)

指標	現状 (令和 年度)	目標 (令和 年度) A	実績 (令和 年度) B	実績/目標※3	
総人口	人	人	人	—	
公共下水道	汚水衛生処理人口	人	人	人	%
	汚水衛生処理率または汚水処理人口普及率	%	%	%	%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	人	人	人	%
	汚水衛生処理率または汚水処理人口普及率	%	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口	人	人	人	%
	汚水衛生処理率または汚水処理人口普及率	%	%	%	%
未処理人口	汚水衛生未処理人口	人	人	人	%

※3(実績の割合-現状の割合)/(目標の割合-現状の割合)

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再利用の推進に関するもの	11	ごみの有料化の検討	にかほ市	ごみの有料化実施是非を含めた各種検討	H29～R3 (H29～R3)	家庭系ごみの有料化は当面行わない事とした。指定ごみ袋の改良検討・処理施設への直接搬入ごみの料金設定見直しの検討業務を令和5年度に行う予定です。
	12	教育、啓発活動の実施		環境教育、施設見学会やその他啓発活動の実施	H29～R3 (H29～R3)	新施設の稼働に合わせ施設の見学を受入れ、パンフレット、チラシやビデオを活用した環境教育を行い、ごみ処理の現状と課題、市の取組を紹介し、住民・事業者が理解を深めるよう啓発活動を図った。(平成29年度から令和3年度見学者:63件1,588名) 広報や出前講座でごみの分別収集・減量化の推進を図り、市内小中学生を対象に「ごみ減量・リサイクル促進ポスターコンクール」を実施した。
	13	エコバッグ・買い物かごの持参及び過剰包装の抑制		エコバッグ等持参の呼びかけによる過剰包装や袋ごみの発生抑制	H29～R3 (H29～R3)	消費者団体等の協力によりエコバック、買い物かごの持参の呼びかけ、店舗等の自主的取り組みにより、過剰包装、袋ごみの発生抑制を図った。
	14	住民主体回収の支援・助成		集団回収助成や店頭回収支援の検討	(H29～R3)	少子化の影響による集団回収の減少により助成は検討されていない。
	15	家庭内生ごみ処理の推進		コンポスト容器、生ごみ処理機普及やBDF事業との連携	(H29～R3)	平成22年度から生ごみの減量を図るため、生ごみ処理機設置事業補助金を交付し減量化を図った。(平成29年度から令和4年度までの補助実績:電気式処理機22件、コンポスト23件、水切りバケツ0件) BDF精製事業との連携により、廃食油のリサイクルを促進した。(平成19年度から事業実施、平成29年度から令和3年度回収量6,579ℓ、協力町内会等15団体)
処理施設の整備に関するもの	1	マテリアルリサイクル推進施設(ストックヤード)		旧焼却施設の跡地を有効に利用し、ごみの自区内処理を推進	H29～H30 (H29～H30)	平成30年度にストックヤードの建設工事を実施し、平成31年4月1日より、資源ごみ(古紙・ガラス類)の自区内処理を開始した。

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
施設整備に係る計画支援に関するもの	31	1の計画支援	にかほ市	旧焼却施設の解体とストックヤード整備に係る設計	H29 (H29)	平成29年度に旧焼却施設の解体を実施し、同年中にマテリアルリサイクル推進施設(ストックヤード)整備に係る実施設計業務を実施した。
その他	41	不法投棄対策		分別排出の徹底とパトロールの強化	H29～R3 (H29～R3)	新施設建設に合わせ「家庭ごみの出し方」ポスターを作成し、全戸配布し分別排出の徹底を図った。不法投棄監視員9名により監視パトロールの実施、不法投棄防止看板の設置を実施した。
	42	災害時の廃棄物処理に関する事項		災害廃棄物の処理等周辺自治体との連携体制の構築	H29～R3 (H29～R3)	秋田県で作成する「秋田県災害廃棄物処理計画」に基づき、県計画との整合性を図りながら仮置き場の配置計画を検討し、平成31年3月に「にかほ市災害廃棄物処理計画」の策定したが、市民への周知は行っていない。

### 3 目標の達成状況に関する評価

#### 【ごみ処理】

##### ○排出量

令和4年度排出量合計は、平成27年度実績に比べ8.9%の減少、目標の8,819tに対しても実績が8,735tであり目標値に対しても約1%減少しており目標を達成している。生活系排出量、1人当たりの排出量については未達成となっている。

##### ○再生利用量

令和4年度再生利用量合計は、目標の1,480tに対して実績が1,131tであり目標値に対して76.4%となっている。

##### ○最終処分量

最終処分場の埋立量については、直接搬入の埋立量が738tあり、新施設に搬入され、破碎後資源物を取り除いたものと、焼却灰の合計で1,599tとなっている。不燃ごみ、不燃粗大ごみの処理を直接埋立から、破碎後資源物を取り除いてからの埋立て処理にしているため、ごみの減容化ができ最終処分場の延命化が図られているため目標に向け推進が図られていると考える。

#### (都道府県知事の所見)

排出量について、事業系の総排出量については減少したが、目標を達成していない。生活系は、総排出量について減少し目標を達成したが、1人当たりの排出量は増加し目標達成に至っていない。

再生利用量については、総資源化量が目標達成に至っていない。再生利用量の増加につながる取組を推進されたい。

最終処分量については、埋立最終処分量は減少したが、目標を達成していない。引き続き、中間処理で減量化を図り引き続き最終処分量の削減の取組を進めていただきたい。